

家畜衛生情報

東部地域畜産経営技術推進指導協議会
665号
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所

2024.10.10

令和6年度富山県畜産共進会(肉豚の部) 開催される.....	1
令和6年度富山県家畜伝染病防疫演習を 開催しました.....	2
岐阜県家畜伝染病防疫演習に参加して...	2
高病原性鳥インフルエンザシーズン到来！ ～対策を徹底してください～	3
野鳥における高病原性鳥インフルエンザ 監視体制について.....	3
悪臭物質の特性について.....	4

腐蛆病の検査が始まりました	4
☆鶏コクシジウム病について ～基礎知識と対策～	5
第65回全国家畜保健衛生業績発表会で 農林水産省消費・安全局長賞を受賞.....	5
防疫情報.....	6
県畜産関係職員人事異動	6
お知らせ	6

令和6年度富山県畜産共進会（肉豚の部）開催される



優等賞1席(県知事賞)の枝肉



褒賞授与の様子(左：南さん)

9月13日、(株)富山食肉総合センターにおいて、令和6年度富山県畜産共進会(肉豚の部)が開催されました。今年度は、県内11農場から去勢と雌の50組100頭の審査が行われました。

(公社)日本食肉格付協会富山事業所の吉田所長はじめ3名の審査員による厳正な審査の結果、優等賞3点、1等賞6点が選ばれました。

優等賞1席(富山県知事賞)は黒部市の南進さんが受賞されました。審査講評では、「雌は極上、雄は上の格付けであり、モモの張りが良く、脂肪の付着は適度、切開面の脂肪交雑があり、バラの大きさも良好、ペアの外観やローズ芯面積の大きさ、バラの厚さなど全体的にバランスが取れている。」とのことでした。2席は黒部市の(有)シムラシンキ農場、3席は砺波市の(有)たかはた養豚でした。おめでとうございます。

(西部家保環境課 粕谷課長)

令和6年度富山県家畜伝染病防疫演習を開催しました

10月1日、令和6年度富山県家畜伝染病防疫演習を開催しました。本演習は高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)や豚熱、アフリカ豚熱等の家畜伝染病が発生した際に迅速に対応できるように毎年実施しているものです。今年も国と県、市町村および関係機関の約150名が一堂に会し、午前中は県民会館で座学、午後からは農協会館にて実技訓練を実施しました。

座学では、HPAIの防疫体制や防疫従事者の健康調査に加え、豚熱及びアフリカ豚熱の発生状況、本県における防疫対応、殺処分などの防疫措置の考え方について、情報共有を行いました。また、豚熱・アフリカ豚熱対策として、狩猟者の狩猟時の防疫対策や防護具の着脱について、映像を用いて理解を深めました。

実技訓練では、HPAI発生時、集合施設の運営に市町村職員の協力をお願いすることから、集合施設の運営訓練とともに、防疫作業従事者が、集合施設での健康調査、防護具の着脱、農場での模擬殺処分作業を実施し、演習参加者の理解醸成を図りました。

今年もHPAIの流行期を迎え、未然防止として飼養衛生管理指導を徹底していますが、万が一発生した場合に速やかに対処できるように、防疫体制の構築・維持に努めたいと思います。

(西部家保防疫課 増永係長)



座学（県農林水産部長挨拶）



実技訓練（鶏の殺処分作業）

岐阜県家畜伝染病防疫演習に参加して

9月10日、美濃加茂市で開催された岐阜県家畜伝染病防疫演習に出席しました。本演習には国、近隣県、関係団体等から約150名が参加しました。

演習では、岐阜県農政部職員による鶏の殺処分演習が公開されました。

この殺処分演習は、茨城県の発生時に活用されたコンテナとラックを使用する方法（コンテナ・ラック法）を岐阜県が導入して実施されました。

ラックのサイズは、高さ1.8m、横0.4m、縦0.8mのもので、鶏舎内のケージ間の通路をラックを移動させながら、1ラックにつき鶏を100羽捕鳥していき、コンテナ（高さ2m、縦横1.8m）にラック4台を収容し（図1）、炭酸ガスで殺処分する方法でした（図2）。

作業効率については、従来法とコンテナ・ラック法と比較したところ（作業人数は同数）、コンテナ・ラック法は、従来法より約2倍の作業効率に優れ、大規模採卵鶏農場で発生した場合も効率的な殺処分が行えるものでした。

今回の演習で学んだことを活用し、万が一、高病原性鳥インフルエンザや豚熱などの家畜伝染病が県内で発生した際に備え、より迅速かつ的確な防疫措置の構築に努めて参ります。

(西部家保防疫課 竹元係長)



図1 コンテナへのラック収容



図2 コンテナ内への炭酸ガス注入

高病原性鳥インフルエンザシーズン到来！ ～対策を徹底してください～

2023-24 シーズン、高病原性鳥インフルエンザ（以下 HPAI）は昨年 11 月 25 日から本年 4 月 29 日までに 10 県 11 事例が確認されました。2022-23 シーズンよりも発生数が大幅に減少したことについて、農場における飼養衛生管理基準遵守のための対策が徹底されたことが要因の 1 つに挙げられています。



近年、アジア、欧州、北米、南米など世界的に HPAI の流行が続いていることを踏まえると、今シーズンも渡り鳥の飛来によって HPAI ウイルスが国内に多く持ち込まれる可能性は極めて高いことから、本年も厳重な警戒が必要です。発生を予防するため、地域におけるリスク低減対策を推進し、いま一度、農場におけるウイルス侵入防止対策を強化しましょう。

[農場における発生予防対策]

●農場におけるウイルス侵入防止対策の強化

飼養衛生管理の基本的な管理項目(重点7項目)を毎月点検し、不備があれば改善しましょう。

■人、物、車両の入出時対策

- ・衛生管理区域専用の衣服や靴の使用
- ・着用前後で交差のない動線、明確な境界を確保
- ・適切な車両消毒、手指消毒の実施
- ・家さん舎ごとの専用の靴の使用

■野生動物の侵入防止、誘引防止

- ・畜舎の壁、防鳥ネット等の破損修繕
→特にネコ、イタチ、カラス等の侵入を防止
- ・ねずみ及び害虫の駆除
- ・鶏卵・鶏糞の搬出口に覆いを設置
- ・餌置場の清掃、死体や廃棄卵の適切な処理など誘引を防止

●ウイルス侵入防止対策の更なる向上の取組

飼養衛生管理基準の遵守状況については、家畜保健衛生所やかかりつけの産業動物獣医師等の第三者の有識者の視点や、飼養衛生管理等支援システムも活用して自らの農場の遵守状況を正しく理解・評価し、飼養衛生管理の向上を図りましょう。

また、まん延防止対策として特定症状を示している場合や、飼養家さんに異常があった場合には、速やかに家畜保健衛生所まで通報をお願いします。飼養する家さんの健康状態について注意深く観察するとともに、死亡羽数の増加はもちろんのこと、産卵率の低下、さらには元気消失といった異状が見られた際においても、早期通報をしていただきますようお願いします。

(西部家保防疫課 小林主任)

野鳥における高病原性鳥インフルエンザ監視体制について

例年 9 月頃から多くの渡り鳥の飛来が始まり、これに伴い HPAI ウイルスの国内への侵入リスクも高まります。昨シーズン富山県では、7 種 10 羽の死亡野鳥について鳥インフルエンザの検査を実施し、魚津市で回収されたヒドリガモの死体 1 羽から HPAI のウイルスが検出されました。また、HPAI ウイルスは、渡り鳥以外にも感染個体を捕食することで感染したと考えられる猛禽類やカラス等からも多く検出されており、環境省は野鳥の監視対象を渡り鳥に限定せず幅広い鳥種を設定し、野鳥のウイルス保有状況調査(死亡野鳥調査)を実施しています。

特に毎年 9 月から 10 月末までの 2 か月間は「早期警戒期間」として、ウイルスの早期発見を目的として野鳥における HPAI 監視体制の一層の強化を行っています。10 月 4 日には、北海道乙部町で 9 月 30 日に回収されたハヤブサ 1 羽の死体から HPAI ウイルスが、今シーズン初めて確認されました。

渡り鳥の飛来シーズンを迎え、家さん飼養者の皆様におかれては、繰り返しになりますが、上記の記事を参考に飼養衛生管理基準に基づく防疫対策の強化をお願いします。

(西部家保検査課 西村係長)

悪臭物質の特性について

9月9日、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部川村教授による「悪臭発生を抑制した家畜飼養及びふん尿処理」について講演があり、その概要を紹介します。

畜産に起因する苦情については、平成18年で苦情発生戸数が2,582戸、全飼養戸数に対する苦情発生率が2%ですが、苦情発生戸数は年々減少し、令和5年度は1,380戸まで減少しているにも関わらず、およそ2%と変わっていない状況です。また、令和5年度の内容別の苦情発生状況では、畜産経営に起因する苦情の約5割が悪臭となっています。

悪臭のうち、悪臭防止法では不快なにおいの原因となり、生活環境を損なうおそれのある物質を「特定悪臭物質(22物質)」と定め、そのうち畜産に関するものとして、10物質があります(表)。

悪臭物質にはそれぞれ特性があり、アンモニアは空気より軽く、上空に拡散します。しかし、それ以外は空気より重く、拡散しにくい特性の違いがあります。また、水に溶けやすいものと溶けにくいものでも分けられ、空気より重く、水に溶けにくいに区分される6つの物質は、拡散しにくい傾向にあります。

このように悪臭物質の特性を理解した上で、適切な悪臭発生対策を講じていくことが重要です。

(西部家保環境課 粕谷課長)

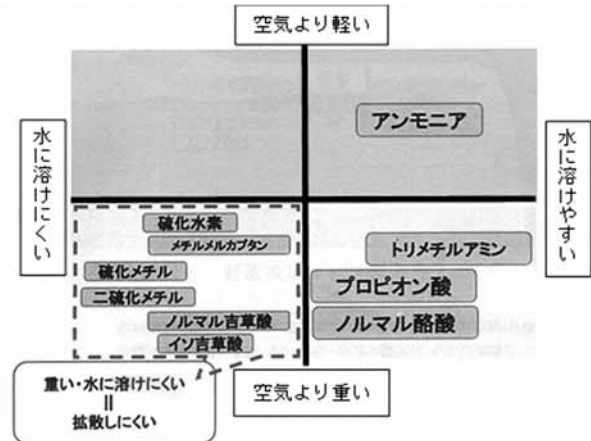


表 悪臭物質の特性(特定悪臭物質のうち畜産に関する10物質)

(出典：講演会資料)

腐蛆病の検査が始まりました

富山県では、約50戸の養蜂家がみつばちを飼養しています。みつばちには伝染病がいくつかありますが、特に被害の大きなものとして腐蛆病があり、法定伝染病に指定されています。そこで、富山県では年1回、秋に養蜂家を巡回し、腐蛆病の検査を行っています(写真)。なお、腐蛆病には、アメリカ腐蛆病とヨーロッパ腐蛆病の2種類があります。

<アメリカ腐蛆病>

みつばちが感染する中で最も重い病気です。アメリカ腐蛆病菌という細菌が引き起こします。本菌に感染したみつばちの幼虫は高い確率で死亡し、またたく間に巣箱内で広がってしまいます。放置すると養蜂場全体に蔓延し、壊滅的な被害の出る恐れがある疾病です。

感染した幼虫は、蛹になるため巣房に蓋をした後、その中で死んで腐ります。巣房の蓋は凹み、小孔がみられるようになります。このような巣房内に棒を差し込み、ゆっくりと引き抜くと糸を引きます。これがアメリカ腐蛆病の特徴的な所見です。

<ヨーロッパ腐蛆病>

ヨーロッパ腐蛆病菌という細菌が引き起こします。アメリカ腐蛆病に比べ病原性は低いとされますが、やはり幼虫が死亡することのある疾病です。

感染した幼虫は、巣房に蓋をする前に死亡します。死亡幼虫は乳白色や灰黒色を呈し、虫体の原型を留めたまま様々な形状で巣房内に横たわります。

どちらの腐蛆病菌も環境中での生存能力が高く、除去の困難な細菌です。発生した蜂群は、家畜伝染病予防法に基づき焼却処分となります。急に蜂が減った、元気が無いなど蜂の様子がおかしいと感じた場合は、家畜保健衛生所までご連絡ください。

(西部家保防疫課 竹元係長)



腐蛆病の検査の様子

鶏コクシジウム病について～基礎知識と対策～

鶏コクシジウム病はコクシジウムという原虫の感染で下痢や食欲不振を起こし、衰弱して死亡することもある病気です。コクシジウムが消毒薬に非常に強い耐性を持つため、しばしば養鶏場で発生が認められます。

消化管で増えたコクシジウム卵（オーシスト）は糞便中に排泄され、これを経口摂取することで別の鶏に感染します（図1）。したがってオーシストを含む糞を鶏が食べないようにすることが対策となります。駆虫薬は産卵鶏に処方できないため、清掃・消毒により環境中のコクシジウムを減らすことが重要です。

Aライン多段式ケージ（図2）はケージが階段状で糞は直接床に落下します。感染している鶏が上段にいてもオーシストが含まれた糞が下段の鶏の口に入る事が少ないため、コクシジウムの影響は少ないです。

直立多段式ケージ（図3）は糞ベルトが移動し、列の末端で除糞後反転し、下段の鶏の頭上を通過します。鶏の行動を観察したところ、除糞の不完全な糞ベルトが下段の鶏の頭上を通過した途端、付着した糞を一斉につつき始めました。一方、きれいに除糞されている糞ベルトならば下段の鶏は全く無関心でした。上段に1羽でもコクシジウムに感染している鶏がいれば、下段の鶏全ての口に入る可能性があります。しっかりと清掃・消毒が重要です。

さらに鶏コクシジウム病は、クロストリジウム・パーフリンゲンスとの混合感染により壊死性腸炎を発症すると死亡率も上昇します。コクシジウム感染が確認された鶏群に生菌剤やビタミン剤を投与することで腸内環境を整え腸炎を軽減し、死亡率を低下できた事例もあります。

軟便や下痢をしている養鶏場で産卵開始時期や産卵率など成績が思わしくない場合、家畜保健衛生所ではコクシジウムの検査も実施いたしますのでご相談ください。

（西部家保検査課 穴田獣医師）



図1 鶏コクシジウム病の発生サイクル

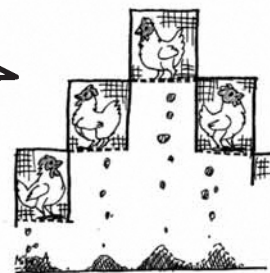


図2 Aライン多段式ケージ



図3 直立多段式ケージ

上段の鶏が糞をしても下段の鶏の口に入る事は少ない

糞ベルトに糞が残っていると下段の鶏は残った糞をつつく

きれいに除糞されている糞ベルトならば下段の鶏はつつかない

第65回全国家畜保健衛生業績発表会で農林水産省消費・安全局長賞を受賞

9月19日～20日、東京都の銀座ブロッサムにおいて、第65回全国家畜保健衛生業績発表会が開催されました。全国518題の演題の中からブロック選出を経た48題の発表があり、「2015年～2022年、オール十勝で取り組んだ牛ウイルス性下痢清浄化対策の成果」（北海道）と「クロバエによる豚熱ウイルスの伝播リスク評価」（栃木県）の2題が農林水産大臣賞を受賞しました。

本県からは、小林主任（西部家保防疫課）が「家きん農場で取り組んだカラス対策とその効果」について発表し、鳥インフルエンザ対策として、カラスの農場侵入数を減らした地道な取り組みが高く評価され、農林水産省消費・安全局長賞を受賞しました（発表内容の概要は本誌658号に記載）。県として、引き続き鳥インフルエンザ対策について指導に取り組んでいきたいと思ひます。

（西部家保防疫課 飯田課長）



本県代表の小林主任発表

防疫情報

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症と化膿性肝漿膜炎	牛	8月26日	1	1	
牛パストツレラ症	牛	8月28日	1	1	
牛大腸菌症	牛	9月2日	1	1	
乳頭糞線虫症	牛	9月5日	1	1	
乳頭糞線虫症と牛コクシジウム病	牛	9月16日	1	1	
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	牛	9月19日	1	1	
鶏脳脊髄炎と鶏コクシジウム病	鶏	8月6日	1	1	

県内における野生いのししの豚熱 PCR 陽性事例（令和6年9月5日以降）（10月4日現在）

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	9月16日	魚津市小川寺地内	成獣	雌
2	捕獲	9月20日	氷見市国見地内	幼獣	雌
3	捕獲	9月25日	氷見市吉滝地内	幼獣	雌
4	捕獲	9月27日	氷見市藪田地内	成獣	雄
5	捕獲	9月27日	氷見市藪田地内	成獣	雄
6	捕獲	9月27日	氷見市藪田地内	成獣	雌

令和6年(2024)シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況（10月4日現在）

事例	回収日 採取日	場所	検体情報			最終判定
			検体の種類	種名	陽性羽数	
1例目	9/30	北海道乙部町	死亡野鳥	ハヤブサ	1	H5

県畜産関係職員人事異動

10月1日付けで、以下のとおり県の畜産関係職員が異動しました。（敬称略）

区分	氏名	新所属	旧所属
農産食品課	中村 美翔	技師	高岡農林振興センター技師
農業技術課	早苗 美智子	主任	農産食品課主任
高岡農林振興センター	松原 久美子	主任普及指導員	農業技術課主任

☆ お知らせ ☆

催事等	期日	場所
食品安全フォーラム in とやま	10月22日	富山市民プラザアンサンブルホール
北陸三県和牛子牛市場、 県畜産共進会（和牛子牛の部）	10月24日	北陸三県家畜市場（金沢市）
とやまグルメ・フードフェス2024	10月26～27日	富山産業展示館（テクノホール）西館

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
 〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
 編集者 粕谷 健一郎（富山県西部家畜保健衛生所）
 ○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

